

平成28年度 千代尼忌 平成28年9月8日(木) 聖興寺
講演会(伝統芸能鑑賞) 午後2時～3時

石川吟詠会・渋川流剣詩舞道

1 構成吟「千代女 雪・月・花」

千代女が生涯で詠んだ約千七百句の中から、自然の風物を詠んだ十五句を取り上げて朗詠します。

雪 雪の夜やひとり釣瓶の落つる音

吟 前川翔岳

この頃の風のちがひや今朝の雪

吟 井上素風

初雪や使ひの者のはなし声

青き葉の目に立つ頃や竹の雪

月 うら町の軒あかるし今日の月

はからずも琴きく雨の月見かな

名月に帰つてはなす事はなし

十六夜の闇をこぼすや芋の露

川音の町へ出づるや後の月

後の月はじめてせばきいろりかな

花 もどり見人なき里の夕日かな

草履屋の来て聞こえけり初桜

晩鐘を空におさゆるさくらかな

結 初空に手にとる富士の笑ひかな

2 構成吟「加賀能登山河抄」

日本海に大きく突き出した能登半島と、白山を源とする手取川の流域に広がる加賀平野が私たちのふるさと「加賀能登」です。この大地を舞台に繰り広げられてきた先人の営みを、漢詩・和歌の吟詠と詩舞で、北から南へたどってみたいと思います。

① 珠洲の海に 大伴家持

吟 出島岳将

舞 内田恒月・北村津月

珠洲の海に朝びらきして漕ぎ来れば 長浜の浦に月照りにけり

② 九月十三夜 上杉謙信

吟 酒井恒岳

舞 浅香夏月・森 伶月

霜は軍営に満ちて 秋気清し 数行の過雁 月三更

越山併せ得たり 能州の景 遮莫家郷 遠征を憶ふ

③ 兼六園 木村杏園

吟 本野岳耀

舞 本野真月

名園兼六 一風流 異樹奇花 春又秋

四百星霜 藩祖の徳 錦雲映帯して 三州に振るふ

④ 十億の 暁鳥 敏

吟 辻 岳絢

舞 和泉陽月・西村溪月

十億の人に十億の母あらむも 我が母にまさる母ありなむや

⑤ 白山を望む 江川淡齋

吟 全員合吟

遥かに望む南峰 萬象の秋 雲間に独歩す 百川の流れ

幾千の生命 恩恵を繋ぐ 終古皚皚 北州に冠たり

伴奏

尺八 西山閑山
箏 林雅楽菜